

調 査 票

（回答機関名：福島技術支援センター）

終了年度	実施機関	試験研究課題名
平成 1 4 年度	福島技術支援センター ニット製造業 織布業	異素材の複合化縫製技術の活用による高感性衣料の開発
試験研究の目的・内容・結果		
<ul style="list-style-type: none"> ・産官共同研究開発事業（平成 1 2 ～ 1 4 年度）研究成果報告書 研究課題「異素材の複合化縫製技術の活用による高感性衣料の開発」平成 1 5 年 3 月発行 ・平成 1 4 年度福島県ハイテクプラザ試験研究報告 平成 1 5 年 7 月発行 P 1 1 ～ 1 2 		
利活用の状況		
<ul style="list-style-type: none"> ・「ニットと織物の結合による新しいファッション・高感性衣料の開発」では製造特許「横編機を使用した編織地の製造方法」（特許第 3 5 8 3 3 7 7 号）を取得するとともに、共同研究企業が展示会等で試作品を大手アパレル企業に提案し、受注に成功することができた。 ・当該研究の基本技術である複合化縫製技術は、その後基本技術を改良・発展させ、産業資材分野での活用へとその応用分野を広げている。具体的には炭素繊維を用いた 3 次元織物の試作開発を行い、大手関連企業へサンプルを提供、市場評価を受けている段階である。 ・高感性衣料の開発に取り組んだニット製造業企業は、これ以降、当該研究で培った新商品開発力を更に高め、高感性から高感性高機能へと発想を進化させて様々な機能を発現する特殊繊維を用いた新商品開発に取り組んでいる。 		
利活用にあたっての問題点		
<ul style="list-style-type: none"> ・高感性衣料の高感性とは、作る側が感じる高感性ではなく、マーケットが求める高感性でなければならぬところが、単なる製造技術で論じられない部分であるため、如何にマーケットからこれらの情報を得るかが今後の課題でもある。 		
利活用を促進する提案		
<p>（上記問題点を解決する提案を記入する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケットが求める高感性に近づけるために、市場分析の他に意外性のある機能を製品に付与することで、消費者に大きなインパクトを与える方法も考えられる。 		
外部評価アドバイザーのコメント		
<p>会津木綿などとの融合も可能か。</p>		